



## 特集

## 耳下腺腫瘍について

耳鼻いんこう科  
診療部長

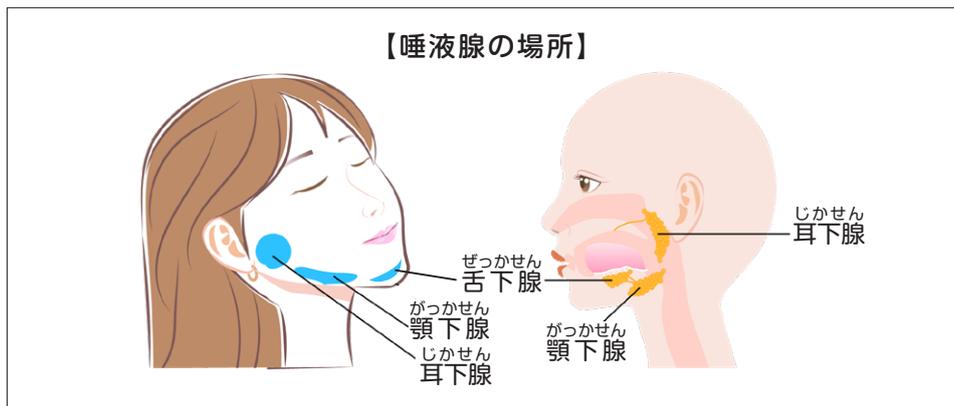
木村 宣彦

日本耳鼻咽喉科学会  
専門医 / 専門研修指導医  
身体障害認定医

## 耳下腺とは

耳下腺とは、最近ではワクチン接種のため診る機会は少なくなりましたが、いわゆるおたふく風邪の時にはれる耳の下から頬にかけて存在する唾液腺の1つです。

人には大唾液腺といって唾液を出す腺組織が耳下腺、顎下腺、舌下腺の3つが両側対になって存在しています。



## 耳下腺腫瘍とは

耳下腺腫瘍とはこれら3つの唾液腺（左右合計6個あるわけですが）の中でも耳下腺にできる腫瘍（できもの）のことです。

耳下腺に発生する腫瘍には様々なものがあり、良性、悪性いずれも発生します。だいたい耳下腺の場合には良性腫瘍が80%程度、悪性腫瘍が20%程度を占めるとされています。

悪性のものには悪性度の低いものから高いものまで様々な種類のもので発生しますが、特徴的な症状としては、顔面麻痺をともなう、痛みをともなう、比較的急速に増大するなどがあり、これらの症状があった場合には悪性腫瘍の可能性があるので、できるだけ早めに耳鼻科を受診することが必要です。

良性のものにもいろいろなものがありますが、一番多いのは多形腺腫（たけいせんしゅ）で2番目はワルチン腫瘍です。ワルチン腫瘍は男性、喫煙者に発生することが多いと言われており、10%程度の方は両側に発生する場合があります。

## 多形腺腫について

一番多い多形腺腫についてもう少し詳しくみていきましょう。

耳下腺にできた多形腺腫は、最初小さかったできものが数年かけて徐々に大きくなってきます。痛くもなんともなく症状はただ手で触るとなにかぐりぐりしたものが触れるだけです。小さい間はほとんどの方は医療機関を受診することなくすこされることが多いとおもいます。だいたい2-3cm程度（ピンポン玉程度）になって受診されるかたが多いように思います。この腫瘍は長年（5年から10年とか）にわたって放置すると悪性に変化する（良性腫瘍が癌にかわる）ことがあります。

## 治療について

治療は基本的には手術が必要です。耳下腺腫瘍の手術全般にいえることですが、耳下腺の中には顔面神経（顔の筋肉を動かす神経）が通っています。手術の際にはこの顔面神経を同定し、できるだけ神経を温存して手術をすすめ腫瘍を完全に摘出することが必要です。

腫瘍だけをくりぬく様な手術をすると高率に再発しますし、顔面神経を同定温存しつつ切除するには耳下腺腫瘍の扱いに慣れた耳鼻咽喉科医が行う必要があります。

特に顔面神経よりもより深い位置（深葉といいます）に腫瘍が存在する場合には、手術の際に顔面神経に操作が加わる度合いが強く一時的に麻痺がおこることもあります。

神経を温存できれば、ほとんどの場合顔面神経麻痺は一時的なもので数週間から数か月でもとに戻ることがほとんどです。

## おわりに

耳下腺腫瘍は、見つかったらできるだけ小さいうちに手術するほうが望ましいですので、気になる方は早めにお近くの耳鼻咽喉科へ受診して相談されることをおすすめします。



## 地域医療連携室だより

# 「各診療科別 紹介ポイント」について



地域医療連携係  
副看護師長 森田 昌子

この度、地域医療連携係では各科医師協力のもと、外来診療科別に対応可能な疾患名・症状などをまとめた『紹介ポイント』を作成いたしました。

地域の先生方からご紹介いただく際に「何科に紹介していいか迷うことがある」というご意見もあり、この紹介ポイントを活用いただくことで、少しでもスムーズな患者紹介につながればと考えております。当院にご紹介いただく際の参考にしていただければ幸いです。

ホームページにも掲載予定ですので、地域のみなさまもお役立てください。



国立病院機構 岩国医療センター  
各診療科別 紹介ポイント

患者さんの紹介を少しでもスムーズに選んでいけるように診療科ごとの「紹介ポイント」を作成いたしました。  
 ※紹介の要に該当していない項目は「なし」と記載しております。  
 ※診療予約については申し込み要旨以外の予約となりますので、当日紹介や緊急外来への紹介については予約はできません。緊急外来への紹介については緊急外来、当日紹介については地域医療連携室にお問い合わせください。

診療科	紹介ポイント（治療対象となる疾患や症状など）
総合内科	膵臓不調の発熱（不明熱） 膵臓不調のリンパ節腫大 膵臓の二次腫瘍 どの診療科を受診すればいいのかわからない 【備考】 予約申込みの段階で確認し、当該科に振り分けられることもありますのでご確認ください。
消化器内科	早期胃癌 早期大腸癌・大腸ポリープ 膵臓腫瘍 膵臓の二次腫瘍 膵管狭窄・膵炎・膵がん 膵管結石・膵管炎・膵嚢腫 【備考】 次年度は消化器内科の初診がありませんので火曜日以外でご紹介下さい。腫瘍で来院ください。
肝臓内科	肝腫瘍 肝機能異常（AST・ALTよりALP・γ-GTPが高い場合は消化器内科に紹介することもあります） 【備考】 ①申込時に1〜2ヶ月以内のクレアチニン・GFRの検査データをお知らせください。 ②造影剤使用の検査のある場合は糖尿病薬のメトホルム・メトグルコ内服中の方は造影日の前夜絶食で来院ください。 ③検査予約の可否目的別の紹介はおこなっておりませんのでご了承ください。
呼吸器内科	肺炎 レントゲン・CTでの肺野異常陰影 呼吸器腫瘍 呼吸器腫瘍の再発 長引く咳 血痰
循環器内科	心拍数異常、狭心症 胸痛、胸部圧迫感、呼吸困難、労作時息切れ 心不全、動脈硬化症、糖尿病 呼吸器、息切れ、呼吸困難、肺塞、下肢浮腫 脳動脈瘤破裂 脳梗、顔のほろつき、突如の意識障害 脳動脈瘤破裂 失神、ふらつき、めまい、息切れ、後倒 脳脊髄液減少症 慢性進行性、歩行時の足のだるさ 脳脊髄液減少症 いびきが持続する、自分の声、呼吸音の異常感、顔面紅潮、顔面紅潮に対する顔面紅潮感、夜間の呼吸困難 心室リズム異常、心拍数などの検査異常に対する精密検査 【備考】 該当する症状、疾患（疑い）、既往などあればいつでも紹介ください（日一週）
血液内科	血腫や血尿等の異常 持続するリンパ節腫大 貧血等の異常 出血傾向

※ 予約申込みの際に各診療科（医師）に確認が必要になりますので、お返事にお時間をいただきます。  
 ※ それ以外でも、場合によっては確認にお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。